

鹿兒島和牛日本一



9月13日に開催された凱旋セレモニーで出品者代表としてあいさつする薬師さん(肝属中央家畜市場)



第11回全国和牛能力共進会

審査結果に沸く鹿兒島県関係者(会場=宮城県仙台市「夢メッセみやぎ」)

第9区(去勢肥育牛)

1席 農林水産大臣賞

肉牛の肥育技術を競う第9区には全国から78頭が出品。鹿兒島県からは2頭が出品され、そのうち薬師さんが出品した牛は、肉量・肉質ともに高く評価され、堂々の1席を獲得しました。また、最も優れた枝肉に授与される「最優秀枝肉賞」も受賞しました。



やくし なりひと
薬師 成人さん
(下城町)



▲出品枝肉断面
(公益社団法人全国和牛登録協会提供、帯広畜産大学 口田 圭吾 教授撮影)

5年前から取り組んだ結果

今回の結果は、個人一人ひとりの力ではありません。前回の長崎全共が終わった5年前から、関係者の皆さんの努力が始まり、今回の良い結果につながったのだと思っています。5年後の全共は地元・鹿兒島県での開催です。5年前と同じように、もう明日から5年後に向けて、皆で力を合わせて進んでいきましょう！



鹿屋・仙台間は陸路で片道約1,700kmの長旅。代表牛を乗せたトラックは、9月3日に鹿屋を出発し、5日に全共会場へ。全共での審査を終えて、再び代表牛を乗せて、13日に帰ってきた。荷台に掲げた横断幕のとおり、鹿兒島の和牛が頂点に立った。

フレーズを今後のPRの柱の一つにし、効果的な情報発信や地域振興につなげていきます。また5年後の次回鹿兒島全共に向けて、今後も引き続き、生産農家や関係機関等と連携して、更なる品質向上・生産基盤の確立を目指します。みんなで盛り上げていきましょう！
岡市畜産課(2階)
☎9994311118

日本一和牛のふる里
このように、鹿屋の和牛は鹿兒島県の和牛日本一に大きく貢献しました。今回の結果を踏まえ、鹿屋市は、「日本一和牛のふる里かのや」というキャッチフレーズを掲げました。鹿屋市からは県内最多となる7頭が出品され、いずれの牛も上位に入賞し、素晴らしい成績を収めました。特に、肉牛の肥育技術を競う第9区(去勢肥育牛)では、下堀町の薬師成人さんが1席・農林水産大臣賞を獲得。肉牛の部では、実に鹿兒島県勢として35年ぶりの快挙となりました。

県勢35年ぶりの快挙
鹿屋市からは県内最多となる7頭が出品され、いずれの牛も上位に入賞し、素晴らしい成績を収めました。特に、肉牛の肥育技術を競う第9区(去勢肥育牛)では、下堀町の薬師成人さんが1席・農林水産大臣賞を獲得。肉牛の部では、実に鹿兒島県勢として35年ぶりの快挙となりました。